



**** NEW ZEALAND 特集 ****

【平成30年度 ニュージーランド Columba College 姉妹校研修 報告会日程決定】

- 1 日時 平成30年11月20日（火）午後3時30分から午後5時00分まで
- 2 場所 本校2階大会議室
- 3 内容 ア 研修生による報告
 - ・事前研修の内容 ・現地でのプレゼンテーション
 - ・現地での生活
 - ・(株)オークランド・リンナイ社内研修報告 ・その他
 イ ご臨席の方々からのフィードバック
- 4 申し込み方法 当日受付
- 5 その他



NZ 大使館の方々をはじめ、経済産業省、経済同友会、ハーバードクラブ、(株)読売新聞、(株)JAL、(株)NZ航空、その他、今年も錚々たるの方々のご臨席を賜る予定である。現在のところ、本プログラムの参加者は女子生徒のみであるが、海外の高校生活を知り、進路選択の幅を広げるために、報告会には男子生徒も是非参加して、来年に向けて君の知恵を貸してほしい。

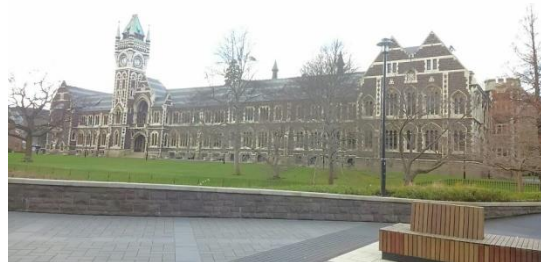
【平成30年度 ニュージーランド Columba College 姉妹校研修 概要】

(NZ 概要)ニュージーランドは人口が約 470 万人ながら(欧州系 74%、マオリ系 14.9%、基本言語は英語)、豊かな自然の中で人々が質の高いスローリビングを楽しんでいる。一度、この土地を訪れ、人生を楽しむ人々に接していると、「人間の幸福とは何か」と考えさせられる。ここには、美味しい水資源、豊かな食料(水産業・畜産業)、エネルギー資源(水力・地熱)、上質な教育が揃っている。「おもてなしの日本」に対し、「ホスピタリティの



＜ダニーデン市中心＞

NZ」であるため、何時に、どこで会おうとも、人々はとても優しい笑顔をもって挨拶をしてくれる。その中でも、ダニーデンはスコットランド移民が造った美しい街並みを持つ都市で、オタゴ大学を中心に教育機関が集中した教育の町としても知られ、世界から留学生が集まる。NZ の教育システムは政府の保証もあり、世界からも注目されているが、8校ある NZ の大学のうち、南島の中心がオタゴ大学である。



＜オタゴ大学＞

(コロンバカレッジ概要)ダニーデンの高台に聳える名門校で、多くの国際人を輩出している。生徒は、非常に礼儀正しく、気品に満ち、本校生徒ともすぐに打ち解けて優しく手を差し伸べてく

れる。学内には学生寮も完備し、留学生も多い。2016年に武内校長先生とコロンバのJuliete校長先生との間に姉妹校の協定が結ばれ、今年度はその2期生に当たる。今年度は、Jeness新校長先生体制に変わられたが、日比谷生は大変なる歓待を受け、今後も受け入れが継続されることとなった。

(研修目的) 世界の方向性を決定するのも、問題を解決するのは結局のところ人間同士であり、グローバル化が進む現代にあっては、一国では何もできないというのはご承知の通りである。従って、この国には他国との懸け橋となる人材が必要であり、学生の頃から海外の方々と交流を持つことで、皆さんが国際舞台で活躍する時には、電話一本で国際問題を解決できるまでに人間関係が成熟しているかもしれない。また、個人においても、スマートフォンの向こう側に、いつでも級友やホストファーザー・マザー、また、新しい兄弟姉妹がいるというのは心強いし、毎日が楽しくなる。ふとした時間にメールを交換したり、悩み事を相談し、時には相互訪問や共に世界旅行したりと、視野や日常空間がもっと広がって必ず違う人生となる。次年度は、現一学年の君にその役目をお願いしたい。

(研修概要) 事前研修としてNZ大使館の大使にお目にかかり、ニュージーランド流のティーパーティーを経験するところから始まり、(株)JAL、経済産業省、(株)読売新聞社、(株)NZ航空の研修を経て、学校ではなかなか学べない「世界の中における日本」「日本の立ち位置」を学んだ。この研修を通じ、自分の視野の狭さを痛感し、今までとは違う角度から勉強への意欲が掻き立てられる。第一線で働く方々の話を聞くだけでも大いに刺激になるうえ、本物に触れることは、一般高校生が経験できないことである。事後研修では、開校記念日の夜に、北山禎介三井住友銀行特別顧問の下、アメリカ大統領選挙の日の株価変化、ディーリングルームの役割、今後の銀行業態のあり方とSMBCの戦略について学んだ。グローバル化・発展したフィンテックを受け、銀行は業態が変わっていることに皆さんもお気づきだろう。本校の姉妹校プログラムは楽しい交流だけではなく、日本を代表する者として、高い経済的・政治的・文化的教養も身につけてはならない。事後研修の最後は、経済同友会の方から、幅広い教養を学ぶ予定である。

(コロンバでのプレゼンテーション) 「0から1」を作る創造的能力は、今後欠かせないリーダーの基本であるが、これを高めるとともに、多様な価値観をぶつけ合い、より深い人間関係を構築するために、プレゼンテーションを用意してコロンバに入った。テーマは「生徒が本当に学びたくなる授業とは」「生きがいのある働き方とは」の2種であり、前者は経済産業省教育室長浅野大介さんやハーバートクラブのAhmadjian Christina教授からご指導を頂き、後者はJALフィロソフィーを基軸にアイデアを捻出した。内容とフィードバックについては報告会で発表をする。

(番外編)

・初日・・・到着と同時に歓迎パーティーがあり、その後、ファミリーが研修生を一人一人連れていく。その時は不安そうであるが、翌日は笑顔で登校し、最後の日は涙の別れとなる。今年度は、空港に向かう朝に寮母さんが大泣きをしてくださった。級友やホストファミリーとの交流時間に、どのように楽しいことがあったかは報告会に委ねたいと思う。

・コロンバの一日・・・コロンバの一日は、8時40分から各クラス10～20人前後で授業が始まる。本校同様のカリキュラムの他に、立派な舞台装置のスタジオでは演劇の授業がある。研修生はそれぞれのクラスに参加したが、マオリ語や社会学の授業は全員で参加した。面白いのはマオリ語を英語で学ぶ点である。本校では、所謂“早弁”の伝統があるようだが、コロンバでは、1・2時間目を終えるとダイニングでのティータイムがある。ケーキや果物とお茶を楽しみ、休憩してから次の授業に行く。昼には礼拝や全校集会がある。ちなみに、全校集会では、研修生が日比谷の校歌とマオリの歌を披露し、割れんばかりの拍手に包まれた。なお、研修生には特別に、レンジャーによる自然環境研修も組まれた。

・ツーリストガイド・・・添乗員さんの同行費用は参加者の負担となるため、この研修ではお願いをしていな

い。従って、渡航から支払いまで全て学校が行う。移動途中の安全は穴沢副校長先生が確保し、国際決済は小澤室長が行ったが、その他は研修生自身がトラブルを一人で解決し、それを乗り越えなくてはならない。周囲の人々にどう関わり、どう感謝を伝え、どう友情を育てて行くかは、各自が事前に考え準備をする。授業中もホームステイ中も全て自分一人で頑張る。それがこの研修である。

・カフェ・・・NZには雰囲気の良いカフェがたくさんある。コロンバの先生方にも連れて行って頂いたが、学校の近くにも景色の良いカフェがあり、研修生は現地の生徒たちと何度かスイーツを楽しんでいたようだ。